

趣味の広場

小さな集まり

二十三回生 佐怒賀(片山) 弘子

六十年ぶりのけむりのような同期会逝きにし友の声も寄り添う

思い出せない風景のある時間なり記憶の欠片で埋め合わせゆく

「弘子ちゃん」と呼ばれとまどう一瞬にいじめっ子との熱き握手を

野心などらっぽけなものよとすすき原わたしを隠すざわつと揺れて

カルパッチョガラスの皿に透けている君との沈黙に酔ゆき香のたつ

ひかりの尾曳きて疾走するバンデッドみんなどこかに行ってしまうよ

(註 バンデッドはよみうりランドの大型ローラーコースター)

指先のつめたいと思う指先でベーグルを裂く空洞こわして

女郎蜘蛛脚からませて網を張りおさまりている罠なるま中に

菜の花のひかりの束を湯に放らカラダッシュユのせみどり思う

(註 カラダッシュユはスイス最大の筆記具メーカー)

やわらかなまなざしに想う父、母を百年離はしずかな息する

